

基調講演3

上尾市社協における
「権利擁護支援チームの
形成支援・自立支援」の実践

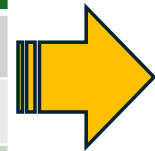
社会福祉法人上尾市社会福祉協議会
上尾市成年後見センター
専門相談員 丸山広子

審議会から運営委員会に

「このような成年後見センター（中核機関）を目指したい」という議論を重ねながら、1つのチームとなっていた。

令和2年7月～令和4年3月

審議会	人数
弁護士	1
司法書士	1
社会福祉士	1
医師	1
地域包括支援センター	1
基幹相談支援センター	1
大学教授	1
民生委員・児童委員	1
埼玉県社協権利擁護センター職員	1



令和4年4月～現在（一部異動したメンバーは変わっている）

運営委員会	人数
弁護士	1
司法書士	1
社会福祉士	1
医師	1
地域包括支援センター	1
基幹相談支援センター	1
大学教授	1
民生委員・児童委員	1



運営委員	人数
社協事務局長	1
市福祉総務課長	1
市高齢介護課長	1
市障害福祉課長	1

オブザーバー家庭裁判所



専門相談員

弁護士
司法書士
社会福祉士
センター長

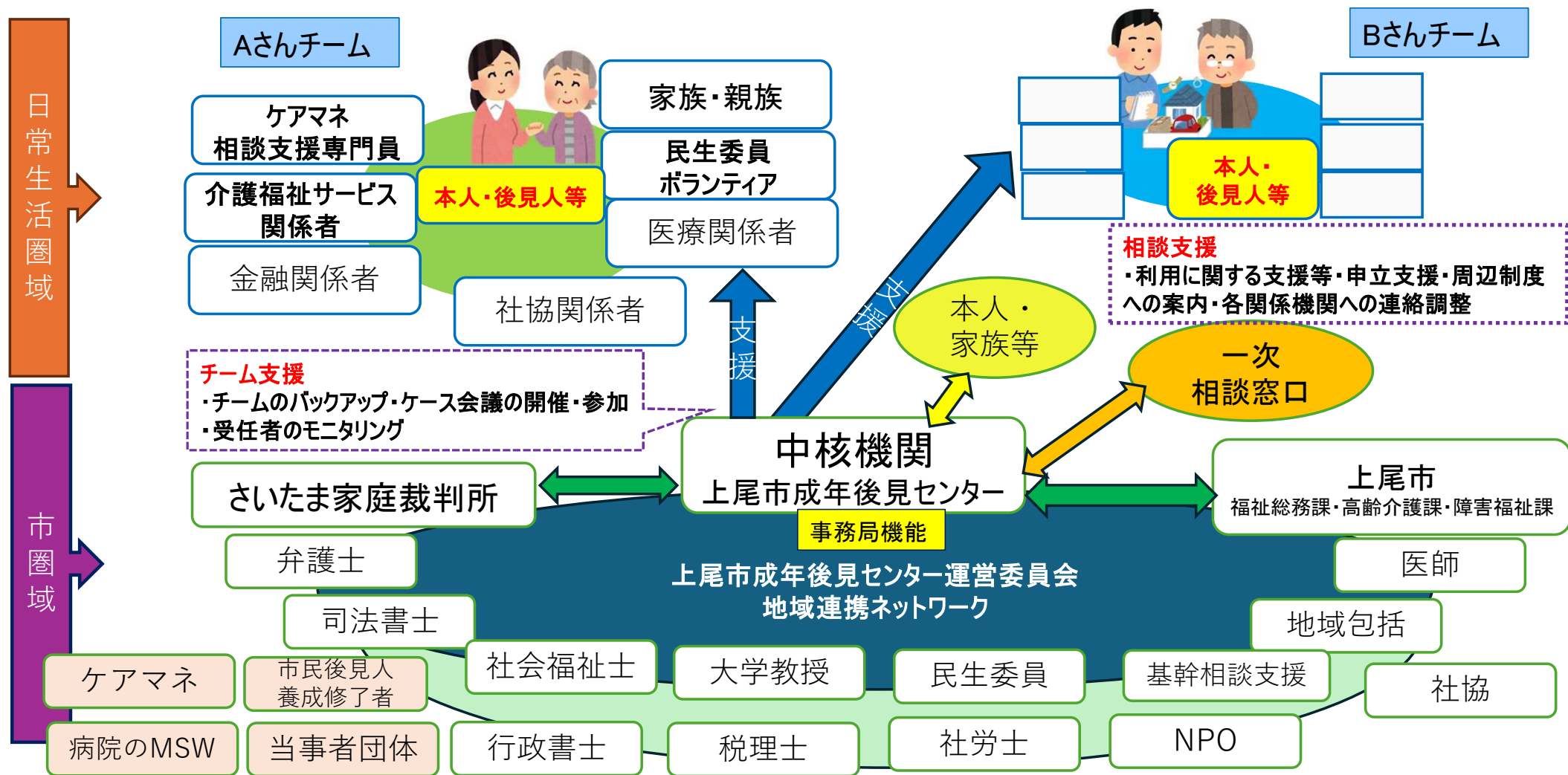
オブザーバー
行政担当課



支援調整会議構成員

地域に広がるネットワークの種まき

中核機関を中心とした地域連携ネットワークのイメージ



【仕掛ける⇒種をまく】地域連携ネットワーク連絡会

「このような成年後見センター（中核機関）を目指したい」（審議会から運営委員会）
さらに輪を広げ、種々の知見を取り入れる

運営委員会のメンバーに加え、

行政書士、税理士、社労士

各地区の民生委員代表

NP0・社協の地域福祉係支部担当者

市高齢、障害担当者・各地域包括担当者

ケアマネの会・基幹相談支援センターのメンバー

障害福祉関係事業所連絡会関係者

オブザーバー：さいたま家庭裁判所 が参加



・認知症初期集中支援
チーム
・親族等成年後見人
・認知症と家族の会
・手をつなぐ育成会
・市民後見人養成研修
修了者 等



集まり繋がり、
それぞれの得意
分野を活かすこ
とや認め合うこ
とで本人への支
援力を高める、
地域へ権利擁護
の種をまく

第1回テーマ（2023.8/8）
成年後見制度と地域連携ネッ
ト枠についての講演・グルー
プワーク



第2回テーマ（2024.11/5）
いまさら聞けない？成年後見
制度～疑問を解決みんなで共
有しよう



第3回テーマ（2025.2/28）
講演「成年後見とチーム支援
～つないで終わりにしない
の？」

地域共生社会の実現

成年後見制度利用促進法 第1条 目的

包括的・手厚い・多層的な支援体制と地域における様々な支援活動の連携・協働

下支えがあつてのチーム・・・相談からはじまるチームの形成支援
【事 例】

障害者支援の
ネットワーク

生活困窮者支援の
ネットワーク

自立した生活と地域社会への包容

権利擁護支援

(本人を中心にした支援・活動の共通基盤となる考え方)

意思決定支援

権利侵害の回復支援

相談でまずは受け止め、支援調整会議につなぐ

娘に先立たれ、息子は外国で仕事をしています。最近少し忘れっぽくなってきたかと思い、先生に話すと、軽度の認知症の疑いと言われましたが、まだまだできることもあります。

しかし、今後のことを考えると、誰か一緒に考えてくれる人や自分が何かあったときに頼める人が、身近にいるといいなあと思って相談に来ました



相談から支援調整会議～チームができるまで～そして

支援調整会議の場面

センターで支援して本人申立でできるのでは？
ないかと思う。

本人に了解をとってみます。

候補者として、内容からは、
司法書士でどうか？

課題は本人の不動産と亡くなった娘さんからの相続、行き来ができていない息子さんのこと、これからの施設の検討もありますね

本人と候補者・支援者とをつなぐ場面

本人申立、補助「自分で申立書を書いてみたい、センターで相談に乗ってもらえないか？」

地域連携
ネットワーク

施設相談員：私たちができることがあれば、お手伝いしますよ。

司法書士：一緒に考えますよ。

本人申立、補助「補助の申立の書き方等、相談させていただけませんか？」

協力し合うことでつながっていく場面

申立の準備・申立・選任
引継の立ち合い・チーム会議

チームを自立に導く
モニタリング

事例 1 形成支援①親族後見人、一人で課題を抱えている場合

親族申立、親族後見人が選任され、初回報告の相談に来た後見人（兄）から、母の思いが伝わらず、施設との板挟みになっている。どうしたらいいかと相談がありました



親族といっても、後見人として、お母さんの気持ちを施設関係者に伝えてみたらどうですか



母：89歳

父親が亡くなってから、本人のために一生懸命頑張ってきました。

「障がい者施設【グループホーム】にいた時は、本人の部屋にも行けたし、本人と話しができない時も、職員の人々が本人の様子をいろいろ教えてくれたのに、高齢者施設に入所したら、何も教えてくれない。とっても心配」

兄：57歳

親族後見人

「母の気持ちはわかります。しかし、お世話になっていますから・・・」



妹：55歳

ALS（筋委縮性側索硬化症）障害者施設では介護力がなく、介護保険認定を受け、高齢者施設入所となる。

事例 1 形成支援②親族後見人、一人で課題を抱えている場合



親族後見人さんが、色々と聞きたいことなどがあるようです。
新しい施設なので、お母様も心配しているようです。
一度皆さんでお集まりいただけますか？

説明不足もあったと思います。いい機会ですから、
本人も交えて集まりましょう。相談員さん
も同席してください



話し合いは、スムーズに進み、**後見人として妹の現状や今どんなことに取り組んでいるのかなどを聞くことが出来た。**母も心配していたことを話せて、ホッとした様子だった。「わからないことはいつでも聞いてください」と施設職員から言われ、「**計画のモニタリングに合わせて、定期的にこのような会をお願いします**」と後見人から話せた。

事例 2 形成支援①多くの課題がある孤立した家庭のチーム

母からの電話で、「**今後のことが心配**」という**身の上話**から始まった相談



89歳母
申立者



58歳 行方不明
時折、母に無言
電話がある



54歳 本人
発達障害 20
歳の頃から引き
こもっている

支援調整会議では、「候補者は、社会福祉士、精神保健福祉士、**少し伴走して、様子を見ていく**」

支援調整会議の構成員の「社会福祉士」に相談
ばあとなあ埼玉の先輩と相談
「**女性の人で、障害特性がわかる人、母とも意思疎通が出来そうな人**、施設を検討するとなると、障害者の相談をしているような・・・」

「計画相談をしている人で、頼めそうな人がいる・・・」「事情を話してみよう」



「社会福祉士と面談後、候補者とし、母が申し立てる」

事例 2 形成支援②選任後の支援：後見人との新たな関係づくりを支援

【成年後見人の初回訪問に同行】

成年後見人の社会福祉士と同行して訪問した。
今後の本人の生活や財産管理について話した。

後見人：本人との関係づくりから取り組もうと思います。

母：自分も精一杯。早く施設等を探してほしい。

相談員：母のケアも必要。母の今後について、
地域包括と連携して、つないでいこう。

「しばらく、伴走しますので安心して下さい」
「福祉とはこれからだが、医療職とはつながっている
ので、そこを基盤にチームを形成していこう」

モニタリング・バックアップ

【都度の訪問や電話連絡】

母に対して：本人の様子や後見人とのやり取りについて、わからないことなどはないか？

娘に対して：困ったことはないか、訪問看護の人と仲良くしているか。後見人とはどんなこと話すのか？

後見人に対して：市内のグループホームなどの情報提供や労いなどの声掛け

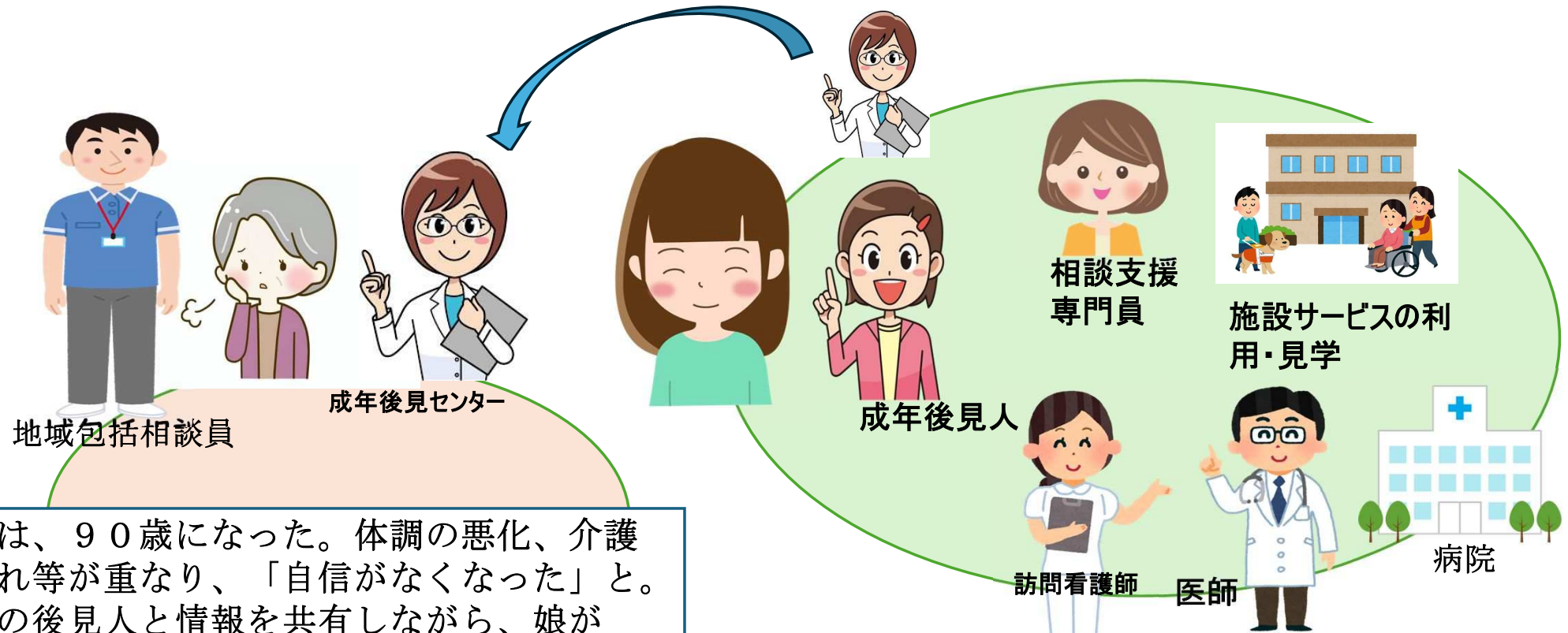
チーム支援



- 相談支援専門員
- 地域包括支援センター
- 障害福祉サービス

事例 2 自立支援①

選任から1年～環境の変化とチームの自立、新たなチーム支援



母は、90歳になった。体調の悪化、介護疲れ等が重なり、「自信がなくなった」と。娘の後見人と情報を共有しながら、娘がショート中に母を支援する地域包括につなぎ、母のこれからを一緒に検討することになった。

後見人選任後、本人を支援する新たな支援者が増え、入所に向けて進むようになった

地域課題の共有

住民の不安感解消、一次相談窓口との連携を通じて、つながりを強化する。

一緒に地域を歩くことで、お互いを知る

まとめ どうしてチームなのかを問い続ける

できない⇒できるようにする⇒そのためにつながる

- ◆相談で課題をまず整理し、関係者とつながる・・・支援調整会議の資料に本人情報シートを用いるため、まずは中核機関が身近な関係者とつながる。
- ◆本人を取り巻く課題を支援調整会議の場で伝え、制度が必要か？どのような後見人が良いか？本人の希望等を加味した調整を行う。
- ◆後見人候補者が本人と事前面談ができる場合には、本人の意思を確認し、その時点での希望を伝えてもらうようにする。
- ◆親族後見人には、自分だけで抱え込まないよう、関係者と連携できない場合は、中核機関が間に入り、チーム支援に導く。
- ◆専門職後見人と親族後見人の共同受任においては、初回の打ち合わせ等に参加し、一緒に今後を検討し、チーム支援に結びつける。
- ◆後見人がつくといきそうな支援者たちをつなぎ止め、本人の権利を擁護するチームの一員として、お互いに何ができるかを話し合う機会を持つ・・・引継の場面が多い。
- ◆関係者中心となり過ぎて、被後見人が一人ぼっち感を持つことにならないようなチームの支援。

住民



いつでも相談してください。
お宅に伺うこともできますよ



第一次相談窓口



相談支援事業所、
病院など相談機関

一緒に訪問しましょう。
「本人情報シート」ご
存じでしたら作成して
ください。

地域連携
ネットワーク

まずは・・・「敷居の高くない中核機関」を目指す

ご清聴ありがとうございました……